

# 教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価の結果報告書

(令和5年度対象)

令和6年8月

半田市教育委員会

# 目 次

はじめに	1
1. 本市教育委員会における実施方法	2
(1) 目 的	2
(2) 点検・評価の対象	2
(3) 点検・評価の構成	2
(4) 点検・評価の方法及び経緯	2
(5) 議会への報告・市民への公表	3
2. 学識経験者による意見	4
3. 施策の評価 ～ 令和5年度を振り返っての施策の評価 ～	6
4. 令和5年度教育委員会主要施策点検・評価表	14
5. 資料集（事業概要）	別冊

## はじめに

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされました。

このことに基づき、市教育委員会では、平成20年12月から「教育委員会の点検・評価」を実施し、その結果に関する報告書を市議会に提出するとともに公表してきました。今回は令和5年度の主な施策・事業が着実に実施されているか、また、効果的に行われているかなどについて、教育委員会自らが点検・評価を行いました。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和5年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する2名の学識経験者の方々の意見をいただいて作成したものです。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第26条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1. 本市教育委員会における実施方法

### (1) 目 的

本市の教育行政の充実に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的とします。

### (2) 点検・評価の対象

令和5年度に実施した教育委員会所管の主な施策・事業を対象としています。

### (3) 点検・評価の構成

- ア 令和5年度の取組状況
- イ 取組状況に関する成果、課題、自己評価
- ウ 課題への対応、今後の目標
- エ 学識経験者による外部評価

### (4) 点検・評価の方法及び経緯

- ア 教育委員会において点検・評価表を作成し、対象とした施策・事業ごとに自己評価を行うとともに、取組状況及び成果を明らかにし、課題等を分析して、今後の対応の方向性を示しました。
- イ この点検・評価について、客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方々のご意見をお聞きする機会を設け、ご意見、ご助言をいただくとともに、各施策・事業について外部評価をしていただきました。

氏 名	所 属 等
浅 田 謙 司 (あさだ けんじ)	名古屋学芸大学教職課程 ヒューマンケア学部 特任教授
鈴 木 裕 子 (すずき ゆうこ)	愛知教育大学 幼児教育講座 特別教授

(敬称略)

ウ 点検・評価表の評価欄の基準内容は次のとおりです。

評価記号	評価基準
A	妥当性・効率性・有効性に優れ、十分な成果が上がっている
B	妥当性・効率性・有効性に優れ、改善の余地はあるが成果が上がっている
C	成果を上げるため改善する必要がある
D	成果が上がっておらず、抜本的改革が必要である または、特別な事由などにより、実施することができなかった
E	成果が上がっておらず、事業の廃止検討の必要がある

エ 点検・評価に関わる会議開催状況

令和6年7月9日（火） 外部有識者に事業等の取組みを説明し、意見・提言・評価をいただきました。

令和6年7月24日（水） 定例教育委員会で協議し承認を得ました。

(5) 議会への報告及び市民への公表

令和6年8月19日（月）に議会へ報告します。（議員に配布、全員協議会で説明。）その後、報告書を半田市教育委員会のホームページに掲載して、市民へ公表します。

## 2. 学識経験者による意見

点検・評価にあたり、教育に関し学識経験者の知見の活用を図るため、浅田謙司氏、鈴木裕子氏よりご意見、ご助言をいただきました。主な内容は、次のとおりです。

### 【全体】

行政は縦割りになってしまう傾向にあるが、教育委員会内でお互いを理解して事業を組み立てており、横の繋がりが感じられた。市民のニーズをとらえ、臨機応変に対応し、小回りの利く取組みを実施している。

良い取組みをしているにもかかわらず、全体的に自己評価が厳しい。数値目標を達成できたかどうかは確かに指標の一つではあるが、それだけに因らない評価でもいい。

このまちの人が、このまちを好きになってほしいという思いで事業を実施していることが、どの部署からも感じられた。

### 【学校教育課】

日本語初期指導教室におけるタクシー巡回について、子ども目線のアイデアですばらしい。ぜひ続けてほしい。

いじめ重大事案となってしまった件について、半年間かけて丁寧に対応したとのことであり、そういった取組みを見せることも大事である。

特別支援学級補助員等の配置が近隣市町と比較して手厚いと感じる。児童生徒、学校にとってもありがたいことである。令和6年度は特別支援学級補助員を中学校にも配置するとのこと、成果を聞きたい。

コミュニティ・スクールについて、なかなか進まない市町が多いが、地域との良好な関係を築き、協力して実施できていることは評価できる。

### 【学校給食センター】

新しい食器のデザインを子どもたちから募集し、半田市に関係が深い新美南吉の作品にちなんだものを選んだことは、とてもいい。たくさんの応募があったので選ぶのも一苦労だったと思うが、選ばれた作品以外の良い作品を、例えば給食運搬車の側面や背面に載せるなど、他にも使い道がないか考えてみてはどうか。

徴収金管理システムの導入は、保護者にとっても、教職員にとっても負担軽減に繋がることであり、すばらしい取組みである。市立幼稚園・保育園から口座を引き継げることもいい。

### 【生涯学習課】

「豊でコンサート」や「まちなかでアート」など、イベントのネーミングがいい。お客さんが来るのを待つばかりでなく、出向いて音楽や芸術を提供するという発想もとてもいい。地域と一体となって文化芸術を育てる姿勢が見られた。

施設の改築については、部屋の配置も大事だが、利用する人が、人を繋いでいくような施設としてほしい。

### 【スポーツ課】

令和6年度は部活動改革の大きな流れで大変だと思うが、ここまでの準備や調整を踏まえて子どもたちのために工夫して取り組んでほしい。補助金についても、永続的に負担するのではなく、受益者負担を自覚させ持続可能な仕組みを考えているようでいいと思う。

半田は全国に先駆けて総合型地域スポーツクラブを立ち上げた経緯もあり、この強みを生かした部活動改革としてほしい。知多管内からも半田の動きは注目されている。

### 【図書館】

児童生徒用タブレットを利用した電子書籍の貸出サービスを開始したことによる伸び率が顕著であり、とても良い取り組みである。コンテンツを増やすとともに、電子書籍から紙の本という流れができると、より多くの書籍に触れられ、生涯に続く読書習慣を身に付けてもらえるのではないか。

母語の読み書きに苦労している外国籍の子どもがたくさんいるので、電子書籍も含めて外国語の本を増やしてもいい。

### 【博物館】

半田山車まつり期間中に阿久比町の山車を展示していたことにより、知多地域全体の文化を伝えるという意味での展示となっていた。

博物館は、貴重な文化財を保存する役割もあるため、施設更新については、教育委員会施設全体で考えていかなければならない。

### 【新美南吉記念館】

生誕110年ということで様々な取り組みを実施したことが観覧者数に繋がっている。令和6年度も作家のレイチェル・カーソンに関連した企画展を実施したり、新たな取り組みを企画しているようで、ますますの事業の充実を期待する。

### 3. 施策の評価 ～令和5年度を振り返っての評価～

#### 【学校教育課】

##### ■主な取組みと成果

学校生活支援事業については、学校・学級規模や支援を要する児童生徒の状況に応じて生活支援員や特別支援学級補助員等の必要人員を配置したことで、児童生徒の安定した学校生活と教職員の負担軽減に繋がった。

いじめや不登校等対策事業については、いじめの発生件数は横ばい、不登校の件数は増加傾向にある中、不登校対策として、事後的支援に加えて未然予防支援（不登校前の早期アプローチ）に努めた。

日本語初期指導事業については、学期ごとに拠点校を設定して実施しているが、対象となる児童生徒の在籍する学校から拠点校までの保護者送迎が難しい場合にタクシー送迎を実施したことで、保護者の負担を軽減することができた。

小学校水泳授業指導補助委託については、市内1校で民間の温水プール施設において開始した。季節や天候に影響されず水泳授業ができること、学校の管理負担が軽減されること、専門のインストラクターによる指導補助が受けられることなど、児童にも教職員にも好評だった。

I C T教育に関することについては、有識者による教員向け教育D X研修会等を開催し、タブレット等を活用した教育活動の充実に努めた。

教育環境の整備としては、乙川中学校の外構工事、亀崎小学校の実施設計・仮設校舎建設等を実施した。また、当面、改築等の予定のない学校の予防保全的な屋根防水改修や外壁改修に着手するとともに、特別教室の空調設置も計画的に実施し、児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう努めた。

##### □課題と今後の取組み

学校生活支援事業については、中学校の特別支援学級在籍者が増加傾向にあるため、令和6年度より新たに中学校にも補助員を各校1名配置する。

いじめや不登校等対策事業については、不登校等の件数が増加し、児童生徒の抱える課題も複雑・複合化していることから、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを増員し、支援の充実に努める。

小学校水泳授業指導補助委託については、令和6年度から3校での実施に拡大し、今後も順次拡大できるよう準備を進める。

教育環境の整備としては、引き続き亀崎小学校の改築工事を進めるほか、乙川東小学校の改築工事に着手する。

## 【学校給食センター】

### ■主な取組みと成果

学校給食の食材を調達する際は、児童生徒の心身の健全な成長と地元への愛着や食への興味関心の醸成するため、地元の食材を使用した給食を提供する「学校給食週間」などを設け、地元産を指定することで地産地消率の向上を指したが、物価高騰の影響もあり昨年度に比べて地産地消率は下がった。しかし、令和3年度以前と比較すれば高水準で推移しており取組の成果と言える。

学校給食食器絵柄デザイン選定事業では、新美南吉生誕110年に合わせ、新美南吉にちなんだ作品を募集し、市内小中学校から879点もの応募があった。多彩な南吉作品を題材に描かれているものが多く見られ、子どもたちの南吉作品への愛着が感じられる素晴らしい作品を選定することができた。

学校徴収金管理システム導入事業では、国の給食費無償化の動向を窺いながら、学校徴収金管理システム構築ベンダーや学校事務担当者と連携し、短期間でシステムの構築を実現させることができた。また、システムのテスト操作や、担当者への操作説明会を実施することができた。

新学校給食センター建設事業においては、建設工事、電気工事、管工事、空調工事、厨房工事について予定通り進捗させることができた。

### □課題と今後の取組み

地元食材を使用することは、安定的な量の確保が難しいことや、費用がかかるなど課題が多い。物価高騰の影響を考慮しつつ、給食費については適切な負担金額や方法について協議していく必要がある。

学校徴収金管理システムに関しては、政府の給食費無償化に関する動向も注視し、本事業の目的である保護者の利便性向上や学校の負担軽減を確実に実現するために、更に使いやすい仕組みとなるよう改善していく必要がある。

新学校給食センター供用開始に向け、建設工事の進捗に遅延が生じないように、受注業者と密に連携を図っていく。

## 【生涯学習課】

### ■主な取組みと成果

半田市文化芸術推進計画の基本目標である「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」づくりを特に意識して、既存のコンサートの内容を見直し、親子向け・一般向けの2部制にしたことや人気の高い「豊でコンサート～0歳からのクラシック～」、新規事業の親子向け観劇会など、未就学児を含めた親子で参加できる多数のイベントを実施した。

イベントの内容としては、鑑賞型だけではなく、体験要素を取り入れられる公演等を選定し、ワークショップ後の舞台上での演奏体験や楽器の製作ワークショップなど、文化芸術を全身で体感できる企画を多く取り入れ、魅力の向上を図ることができた。

特に、令和4年度から実施している「まちなかでアート」事業は、公共施設内にとどまらず、まちなかで文化芸術に触れられるよう、市内各所で実施されているイベントに抱き合わせて、ワークショップ等を開催しており、常に参加者が満員になるなど、互いに相乗効果を図りながら展開している。

情報発信においては、これまで紙媒体とホームページでしか周知できなかったため、イベントを知らなかった方や文化芸術の興味・関心に達していない方にも知っていただけるよう、生涯学習課独自のInstagramを立ち上げ、イベント情報等を幅広い世代に積極的に発信することができた。

生涯学習の推進に関しては、ゲストティーチャー登録制度に加えて主軸となる事業を模索する中、日本福祉大学との共催により、半田市にゆかりのある直木賞作家 澤田瞳子氏による講演会「わたしと半田市」を開催し、学びのきっかけづくりとともに郷土愛の醸成を図った。

所管施設の一つである成岩公民館に関しては、小学校区コミュニティの構築に向け、公民館にかわり、小学校敷地内に「地域交流施設（仮称）」を設置する市の方針に基づき、市民協働課と連携して実施した「なる小地区 地域のみらいミーティング」（計5回）等において、成岩4区の役員を含む成岩小学校区の住民とともに、地域の現状と課題、未来について話し合い、地域の意識醸成を図ることができた。また、新施設に求める機能や使い方を活発に意見交換し、今後の展望を共有するとともに、市の方針に対する地域の理解を得ることができた。

半田市福祉文化会館については、新たにネーミングライツを導入し、公募の結果、年額1,500千円（契約期間総額6,500千円）のネーミングライツ料を提案した瀧上工業（株）と、契約期間を令和5年12月1日から令和10年3月31日まで（4年4か月間）とするネーミングライツ契約を締結した。

ネーミングライツ料収入は、令和6年度に半田市民管弦楽団の公演開催費用や、はんだ

アールブリュット展の開催費用、福祉文化会館の備品の購入費用に充てる予定としている。今後も、ネーミングライツ料収入を、文化芸術イベントの魅力向上及び会館の利用満足度向上のために有効活用していく。

## □課題と今後の取組み

「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられる」機会のさらなる充実を図るため、新しく取り組む事業だけでなく、従前から行う事業もテーマの設定や実施方法を見直し、未就学児も含めた親子で参加できるイベントへと模様替えをしていく。

また、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術事業に触れられるよう、市内の音楽関係者等と連携を図りながら、文化施設内ばかりではなく‘まちなか’での事業展開にも力を入れる。

生涯学習の推進の面では、企業ゲストティーチャー等による一般向けの講座を充実させることにより、新たな学びの場を提供し、リカレント教育の推進を図る。

成岩公民館から公民館機能を含む成岩地域交流施設への移行にあたり、社会教育団体の支援のあり方については、半田市社会教育審議会に諮り、生涯学習の推進が図られるように整理する。

また、「なる小地区 地域のみらいミーティング」を軸に、地域住民の思いが反映された新施設のレイアウト等をもとに、新施設の機能や使い方、管理運営方法について意見交換を進めていく。

瀧上工業雁宿ホールについては、大規模改修の時期が近づく中、中心市街地のすぐ西側に立地し、賑わいの創出の役割も期待されていることから、施設の複合化や機能の集約化を含め、今後の施設のあり方について検討する。

## 【スポーツ課】

### ■主な取組みと成果

はんだシティマラソン2023を令和5年11月5日（日）に半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）で実施した。今回は新たな取組みとして、午前のマラソンは個人部門とリレー部門を併催し、午後はクイズを取り入れたウォーキングを実施した。【参加状況：全部門合計476人、59チームが参加】

その他、大会や教室等の開催では、半田市スポーツ協会をはじめ、スポーツ関係団体と連携し、予定した事業を実施することができた。

大学地域連携スポーツ推進事業では、部活動改革に係る“スポーツ安全保険”の理解を深め会員及び指導者が安心して活動できるための環境整備や、財政基盤安定や実施内容等の基盤強化に関する勉強会を開催した。また、法人格の取得についてスポーツクラブに対し、取得のメリットや手法を伝えることで、事務局の体制強化や計画的に法人格取得へ動き出すことに貢献できた。

成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス、半田びよログスポーツパーク、半田福祉ふれあいプールなどのスポーツ施設については、適正な修繕・運営を実施し、利用者が安心・安全に利用できる施設を提供することで健康維持・増進へ寄与した。

中でも半田福祉ふれあいプールにおいては、利用者の声から、安全性を確保した上でスマートウォッチのプール内への持ち込みの許可や水着脱水機の設置などを行い、利便性を高めて新たな顧客の開拓を行うとともに、照明設備のLED化による施設の長寿命化を図り、より安心安全に施設を利用することができる環境を整備することができた。

### □課題と今後の取組み

令和6年9月1日から施行される中学校の部活動改革に伴い、生徒の動向に注視し充足した受入体制整備を進めていくとともに、学校教育課と連携し、中学校とスポーツ関係団体の協力体制を構築していく。

スポーツ施設については老朽化が進んでいく中、利用者が継続して安心安全に利用できるよう、適正な維持・管理を行い、改修等を遅滞なく計画的に実施していく。

また、新総合体育館の建設に向け利用団体を中心にニーズを把握し、より良い運営が実施できる手法を導入するために民間活用を優先的に検討していく。

## 【図書館】

### ■主な取組みと成果

乳幼児から高齢者、障がい者、外国籍など様々な人が情報を得、読書を楽しむことができるように事業やサービスを行った。また、それらの人を対象とした大活字本、高齢者向け紙芝居、録音図書、外国語資料などの購入整備につとめた。

貸出中の本のみを対象としていたWEB予約について、棚にある本まで予約できるようなサービスを拡大したこと、窓口で発行していたWEB予約の際に必要なパスワードを利用者自身がホームページから発行できるように変更したことで、市民の利便性向上を図ることができた。

電子図書館については、市内の小中学校の児童生徒が学校タブレットで電子書籍を利用できるようID、パスワードを配布。併せて同時に何人でも利用できる電子書籍のコンテンツを購入したことで、若年層の電子書籍利用が大幅に増えた。

### □課題と今後の取組み

紙資料の充実を図ることはもちろんであるが、利用登録のオンライン化の模索・電子図書館の充実や郷土資料・貴重資料のデジタル化による公開など、非来館型サービスの提供を拡充することで、新しい利用者を開拓し、学びの提供を行えるよう努める。

子ども読書活動推進計画に従い、乳幼児から中学生までを対象とした年齢に応じた資料の充実をはじめ、全ての年齢層において国籍や障がいに影響されない学びを得られるよう、資料や読書環境の整備を行っていく。

また、講座・イベントの開催やSNSを活用した情報発信により図書館及び図書館資料の利用を幅広く周知していきたい。

## 【博物館】

### ■主な取り組みと成果

文化財等公開活用においては、企画展や館蔵品展などで郷土の自然や歴史、文化を伝える展示を実施したほか、博物館に展示している山車でお囃子やからくり人形を上演し、山車文化に触れる機会を提供することができた。また、化石や古文書に関する体験講座などを実施し、年間来館者数もコロナ禍前の93%まで回復することができた。

旧中埜家住宅では、重要文化財の附指定となっている棟札及び設計図の画像データ化、棟札の複製制作を行った。これと並行して、ふるさと納税による寄付金を活用し、客室に別荘当時を思わせる洋風家具を整備した。この結果、貴重な原資料の保護継承と複製資料による公開が可能となるとともに、当住宅の魅力向上が図られ、来場者等の当住宅に対する理解と愛着が深まった。

企画展開催事業では、年間5本の企画展・館蔵品展等を開催した。企画展「歴史と伝統半田の山車祭り」では、市指定文化財等の貴重な資料を借用して半田の山車文化を紹介したほか、収蔵庫に保管されていた由緒不明の山車関係資料について、詳細を明らかにすることができた。また、館蔵品展「全国津々浦々！絵葉書展」では、展示にあわせて約5,000枚の絵葉書を整理し、デジタルデータ化することができた。

### □課題と今後の取り組み

文化財等公開活用では、さらに多くの市民に歴史や文化に関心を持ってもらえるような情報発信を行っていく必要があるため、今後もデータ化した収蔵資料を活用するとともに、魅力的な企画展や講座などを実施していく。

旧中埜家住宅については、今後、建物の魅力や価値を様々な場所で、わかりやすく発信する必要があるため、学習映像資料の制作等を進めていく予定である。

企画展開催事業においては、引き続き、展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館蔵品展や常設展示に反映させていく。

## 【新美南吉記念館】

### ■主な取り組みと成果

令和5年度は、例年の主要事業である企画展開催事業と新美南吉童話賞事業に加え、周年事業である新美南吉生誕110年記念行事事業を実施した。

生誕110年事業では、市内児童24人が約半年かけて練習した「ごんぎつね」の朗読を披露する朗読会をはじめ、半田少年少女合唱団と共催して市内児童の参加も募った合唱ミュージカル、市民が企画実施する記念事業の募集と支援（26件）、市内事業者が多数登録したPRサポーターの募集（257件）など、市民と子どもの参加に力を入れた。

また、人気絵本作家長野ヒデ子氏が南吉生誕110年を記念して出版した絵本の原画を中心にして南吉文学と母について紹介する特別展、長野ヒデ子氏とその娘で幼児音楽教育を専門とする長野麻子氏による親子対談講演会、新美南吉童話賞の審査員で作家である富安陽子・山本悦子両氏による対談講演会など、例年の主要事業である企画展と童話賞も生誕110年との連動を意識した。

その結果、「ごんぎつね」朗読会の509名をはじめ各行事の参加人数も好調で、令和5年度の入館者数は前年度比120%の53,343人を数えた。年度末に実施した半田市eモニターへのアンケートでも、新美南吉を郷土の作家として誇りに思う市民は89%（とても思う55%・多少思う34%）で、市民の南吉に対する理解と親しみは深まっているといえる。

### □課題と今後の取り組み

一方で、生誕110年で高まった新美南吉への関心を維持、高めていくことが課題である。そのためには例年の主要事業である企画展開催事業において、新たな層を開拓できるよう、これまでになかった企画にも取り組み、多彩な展示を提供する必要がある。また童話賞事業においては、令和6年度からWEB応募への対応を始め、若年層からの応募を開拓しつつ、今後も当賞の特色である新美南吉オマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰に繋げる。

令和6年度 教育委員会主要施策点検・評価表

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
1	乙川中学校改築等事業	学校教育課	B	旧校舎等の解体工事及びグラウンド整備等が完了し、生徒の教育環境を向上させることができた。	・旧校舎等の解体工事 ・グラウンド整備	計画通り進めることができた。	終了	B	B
				694,638	562,787	81.0%			
2	亀崎小学校改築等事業	学校教育課	B	校舎等改築工事を進めていくための実施設計が完了し、計画どおり事業を進めることができた。	実施設計を計画どおり完了することができた。設計にあたっては、新たに放課後ひろばや放課後児童クラブを併設するとともに、他学年の児童と交流できる共有スペースを設けるなど、令和4年度に実施したワークショップの意見等を反映させることができた。	概ね計画通りに進めることができた。引き続き、学校と連携し、地域の意見を取り入れた事業実施となるよう努める。	令和7年度(令和8年1月)の新校舎等の供用開始に向けて、旧校舎の解体工事、新校舎の建設工事などを着実に進める。	B	B
				255,338	167,926	65.8%			
3	小中学校特別教室等空調機器設置事業	学校教育課	D	電源ケーブルの確保が困難となり、年度内完了とすることができなかった。	空調を設置する特別教室を確定させ、設計業務委託を実施した。ただし、各校2教室への設置については、電源ケーブルの国内での需要拡大に加え、能登半島地震が発生したことで、必要資材の確保が困難となり、年度内に工事を完了することができなかった。	令和5年度に実施できなかった工事を早期完了を目指す。(5月末に完了) また、今後は、体育館の空調設置についても検討していく必要がある。	子どもたちが安全に快適な学校生活を送れるよう、引き続き、計画的な実施に努める。	C	B
				124,800	34,676	27.8%			
4	小学校施設保全事業	学校教育課	B	保全工事を進めていくための実施設計が7校で完了し、校舎等防水改修工事が5校で完了するなど計画どおり事業を進めることができた。	劣化の程度、改修内容を判断するための実施設計書を7校分作成し、校舎等防水改修工事を5校分完了することができた。なお、実施設計のための施設点検に加え、各小学校とのヒアリングを実施し、学校要望にも柔軟に対応することができた。	点検により対応が必要と判断された箇所については、限られた予算の中で優先順位を付けて対応する必要がある。	子どもたちが安全な学校生活を送れるよう、危険個所の把握を急ぎ、必要な改修を着実に進める。	B	B
				446,716	414,568	92.8%			
5	学校生活支援事業	学校教育課	B	学校生活支援員や特別支援学級補助員等を適切に配置し、きめ細やかに対応したことで、集団生活になじめない児童生徒などの安定した学校生活につなげることができた。また、支援員等を対象に、支援技術などを学ぶ研修会を実施し、支援員等の資質向上を図ることができた。	児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、また、教員が授業や学級運営に専念できるよう、学校生活支援員や特別支援学級補助員、養護教諭補助員等を配置した。	個別支援の必要な児童生徒や特別支援学級の児童生徒が年々増加しているため、支援体制の拡充が必要である。	多様な児童生徒のニーズに応えることができるよう引き続き支援の充実に取り組む。	A	B
				121,042	105,988	87.6%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
6	切れ目のない支援体制整備充実事業	学校教育課	B	医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師及び介助員を派遣・配置し、学校への付き添いが必要な保護者の負担を軽減するとともに、学校施設内のスロープ設置により、肢体不自由の児童生徒が学校生活を送る上での利便性向上につなげることができた。	「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が令和3年9月に施行され、保護者負担の軽減となる看護師等の配置その他必要な措置を講ずることが学校設置者に義務付けられた。これにより、保護者から要望の強い看護師及び介助員の配置等を行うもの。	今後も引き続き、支援の充実に取り組む必要がある。	今後も、必要に応じて、医療的ケアを必要とする児童生徒や肢体不自由、性的マイノリティの児童生徒等に対する支援充実を図る。	B	B
				12,276	10,684	87.0%			
7	いじめや不登校等対策事業	学校教育課	D	不登校児童の保護者からの申立てにより、いじめの重大事態に位置付けた事案が1件あったが、学校での綿密な聞き取り調査において級友等からの嫌がらせ等の事実は確認されず、当該保護者に丁寧に説明・対応し、理解を得ることができた(その後、当該不登校の児童は普通に学校に通えるようになった。)	適応指導教室の設置運営や、スクールカウンセラー・メンタルフレンドの派遣、心の教室相談員・スクールソーシャルワーカーの配置により、支援を必要とする児童生徒の心の安定や課題の解決に取り組んだ。	いじめや不登校など児童生徒が抱える課題は複雑・複合的であり、教育相談員やスクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカーなどによる専門的な相談支援の拡充が必要である。	相談支援体制のさらなる充実に取り組む、支援を必要とする児童生徒の早期発見・早期対応に努める。	B	B
				47,108	47,952	101.8%			
8	コミュニティ・スクール事業	学校教育課	B	コミュニティ・スクールとしての活動が定着し、登下校の見守りや小学校低学年への読み聞かせなどが定期的に行われるようになり、地域と学校との連携・協働による学校づくりが進められた。	学校運営に地域住民も積極的に参加することにより、地域と学校が互いにパートナーとして連携・協働し、学校運営や教育活動等の活性化を図る。	協力者の人員不足等が課題となっているため、継続的に保護者等への呼び掛けなどを行っていく。	地域に根差した特色ある学校づくりを進めるため、学校と地域の連携・協働体制のさらなる充実を図る。	B	B
				7,107	6,007	84.5%			
9	日本語初期指導事業	学校教育課	B	日本語を話すことのできなかった児童生徒が基礎的な日本語を理解できるようになり、学校生活への早期適応に資することができた。	対象となる児童生徒の日本語能力に応じて、「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく指導したことにより、学校生活を送るうえで必要となる基礎的な日本語能力を身に付けさせることができた。また、指導実施校までの保護者送迎が困難である児童生徒に対しては、一部タクシーでの送迎を実施した。	入室には人数制限があるため、対象人数により入室待ちになることがあるため、指導の必要度に応じて入室の順番を決める必要がある。	より多くの児童生徒が日本語初期指導を受けることができるよう取り組み、当該児童生徒の学校生活への早期適応支援に努める。	A	B
				9,191	9,191	100.0%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
10	小中学校情報機器整備事業	学校教育課	B	令和3年度からタブレット端末等を用いた学習が始まり、ヘルプデスクの設置やICT支援員等によるバックアップ体制を構築するとともに、教職員への研修会やICT活用公開授業等を実施したことにより、タブレット端末等の有効性が認識され、授業への利活用が進んだ。	小中学校における情報機器や通信ネットワーク環境の整備・運用、学習支援ソフトの配備等を適切に進め、タブレット端末等のさらなる有効活用等について未来創造協議会等で議論を進めた。	タブレット端末の更新に向け、調達方法や仕様等を早期に固めるなど計画的に準備を進める必要がある。	引き続きICT教育に係る環境整備を進めるとともに、児童生徒のタブレット端末のさらなる利用促進を図る。	B	B
				267,404	256,811	96.0%			
11	学校給食食材購入事業	学校給食センター	C	献立に応じて豚肉については「市内産」、牛肉については「知多牛」と地元食材の使用を積極的に行い、給食物資地産地消比率を高い水準に保つことができた。	地元の旬や郷土料理を食べる「学校給食週間」などでは食材調達の際、産地を指定して半田市産の豚肉を使用したり、市内産・県内産の野菜や調味料を積極的に使用した。	物価が高騰していることもあり、前年度ベースで地元食材を使用することが難しい。地元食材を使用することは、安定的な量の確保が難しく、また費用がかかる。	受益者(保護者)負担と食材費のバランスを適正に保ちながら、できる限り地元食材を使用し、引き続き安心安全で児童生徒の健全な成長や健康を保持・推進できる給食の提供に取り組む。	B	B
				546,162	544,992	99.8%			
12	学校給食食器絵柄デザイン選定事業	学校給食センター	B	市内18の小中学校の児童生徒から879点の応募があった。また、新美南吉生誕110年に合わせ、新美南吉に関連するデザインで募集したことにより、南吉作品への愛着が醸成することができた。	募集では、学校に協力を依頼して1学期の授業や夏休みの宿題に取り入れてもらい、応募数の増加に努めた。また、選ばれたデザインを広く周知するために報道機関に情報提供し、新聞やテレビで紹介してもらった。	現在使われている食器は、平成11年度の採用から25年近く学校給食で使用されてきたため、今回選ばれた作品が描かれた食器についても、今後長きにわたり学校給食の中で親しまれるように努める必要がある。	令和5年度をもって事業終結	A	B
				87	46	52.9%			
13	学校徴収金管理システム導入事業	学校給食センター	B	各学校が検証環境でシステムをデモ操作できる環境を整えることができた。また、金融機関とも調整を行い、令和6年度2学期からの本運用開始に向け準備を整えることができた。	学校徴収金管理システム構築ベンダーや学校事務担当者と連携し、システムの構築、テスト、担当者への操作説明を行った。	給食費無償化に関する政府の動向についても引き続き注視し、将来にわたって最適な運用ができるよう常に検討を続ける必要がある。	本事業の継続実施は、保護者にとって、口座振替に利用する金融機関の選択肢が増えることや、小学校入学時に口座を再登録する手間がないことなどメリットは大きい。また、学校にとっても事務負担軽減につながるため、運用面で更に使いやすいものとなるよう改善を重ねながら推進していく。	A	A
				41,814	38,451	92.0%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
14	新学校給食センター建設事業	学校給食センター	B	昨年度実施した実施設計の成果品を基に建設工事を発注し、遅滞なく建設工事を遂行することができた。	建設工事、電気工事、管工事、空調工事、厨房工事を実施した。	建設工事において、工期に余裕がないと想定されていたが、受注者と連携を密にして目標の進捗率を達成することができた。	新学校給食センター供用開始に向け、建設工事の進捗に遅延が生じないよう、受注業者と密に連携を図っていく。	B	B
				2,703,613	2,671,713	98.8%			
15	音楽のあるまちづくり事業	生涯学習課	B	半田市文化芸術推進計画の基本目標「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」づくりを特に意識して、未就学児も含めた親子で参加できるイベントへの転換を図った。 セントラル愛知交響楽団との協定に基づく委託事業について、固定ファンをもつ従前事業の継続実施から、普段音楽になじみのない、本格コンサートに参加し難い層をターゲットとした事業への転換を図った他、協定以外の事業においても、同様の層の獲得を意識した内容の事業展開を図った。 イベントの内容としては、鑑賞型だけではなく、体験要素を取り入れられる公演等を選定し、音楽を全身で体感できる企画を多く取り入れ、魅力の向上を図った。 また、生涯学習課独自のSNSを立ち上げるなどイベント情報等の発信の強化にも力を入れ、幅広い層に情報が行き届くような工夫も積極的に行った。 これらにより、未就学児やその保護者・家族など、新たな層の掘り起こしを図ることができた。	◆セントラル愛知交響楽団との協定に基づく委託事業の実施 <公演会事業> ・ピアノカンタービレ（Ⅰ・Ⅱ） ・POPS CONCERT（物語の世界・名曲の世界） <アウトリーチ・アドバイザー制度事業> ・全13小学校でのアウトリーチ（4年生への授業） ・幼稚園・保育園・子ども園（2年で全園1回ずつ） ・中学校吹奏楽部員に対する技術指導 <各種講座> ・ビギクラ♪はんだ ・聴いて！知って！楽しむ！大人の音楽授業 <その他事業> ・ちいさなコンサート ・畳でコンサート～0歳からのクラシック～  ◆協定以外の事業の実施 ・和太鼓×マリンバ GONNA LIVE2023 ・ロビーコンサート ・私はピアニスト ・kajiiの日用品楽器コンサート「食器は歌う」	半田市文化芸術推進計画の基本目標「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」づくりに向けて、引き続き、気軽に親子で参加できるイベント等の事業の充実を図る必要がある。 また、音楽のあるまちづくり事業をより強力に展開するため、セントラル愛知交響楽団との協定事業以外にも、市内の楽器店等と連携した事業を新たに展開していく必要がある。	新しく取り組む事業だけでなく、従前から行う事業もテーマの設定や実施方法を見直し、未就学児も含めた親子で参加できるイベントへと模様替えをしていき、「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられる」機会のさらなる充実を図る。 また、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術事業に触れられるよう、市内の音楽関係者等と連携を図りながら、文化施設内ばかりではなく「まちなか」での事業展開にも力を入れていく。	A	B
				11,094	11,047	99.6%			

主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
		評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
			予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
16 文化芸術普及推進事業	生涯学習課	B	<p>半田市文化芸術推進計画の基本目標「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」づくりを進めることを目的に、「親子向け観劇会」を新たに実施するなど、親子で参加できる公演数を増やした。また、まちなかでアートを含めた各イベントにおいて、体験型ワークショップの要素を積極的に取り入れるとともに、生涯学習課独自のSNSを立ち上げるなど、イベント情報等の発信にも力を入れ、対象となる層に情報が行き届くような工夫も積極的に行った。</p>	<p>◆各種文化芸術事業の実施 ・まちなかでアート ・親子向け観劇会「小学校は宇宙ステーション」 ・半田市美術展 ・はんだアールブリュット展</p> <p>◆文化活動全国大会等出場者への激励金の支給</p> <p>◆半田市文化協会に対する事業費補助金の交付</p>	<p>集客やアンケートの結果等から、参加者のニーズに合った実施内容かどうかを検証し、見直しを図る必要がある。</p>	<p>「子どもの頃から多様な文化芸術に触れられる」機会のさらなる充実を図るため、新たに実施した「親子向け観劇会」を始め、親子で参加できるイベントを、ニーズに合った内容で企画し、実施していく。</p> <p>親子向け観劇会については、令和6年度は、より親しみやすく魅力のある内容とするため、教科書で採用された著名な作品「あらしのよるに」を実施し、令和5年度に課題となった集客率の改善を図るとともに、観劇会事業の市民における定着を図っていく。</p> <p>また、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術事業に触れられるよう、「まちなか」での事業実施に力点を置いた施策展開を継続していく。</p>	B	B
			5,516	4,646	84.2%			
17 生涯学習推進事業	生涯学習課	B	<p>「ゲストティーチャー制度」により、小中学校や公民館、各種団体等からの依頼に応じて講師を紹介するとともに、ゲストティーチャーによる講座「まなびとゼミ」を実施する等、様々な主体と連携した生涯学習の推進を図った。ゲストティーチャーには、さらに、まちなかでアートにおけるワークショップを担っていただくなど、活躍の場を広げることができた。</p> <p>企業ゲストティーチャーにおいては、小中学校等の学校現場における出前授業の実施に加え、「介護職のリアルな毎日」をテーマにした一般向けの講座を開催するなど、学ぶ機会の創出を図った。また、リカレント教育の推進のため、日本福祉大学との共催により、半田市にゆかりのある直木賞作家 澤田瞳子氏による講演会「わたしと半田市」を開催し、学びのきっかけづくりとともに郷土愛の醸成を図ることができた。</p>	<p>◆ゲストティーチャー制度の運用（企業ゲストティーチャーを含む）</p> <p>◆各種生涯学習講座（イベント）の実施 ・まなびとゼミ（前期・夏いち・後期） ・企業ゲストティーチャーによる一般向け講座「介護職のリアルな毎日」 ・直木賞作家 澤田瞳子氏 講演会「わたしと半田市」 ・日本福祉大学共催講座 ・子ども科学体験教室 ・ものづくり教室</p>	<p>「まなびとゼミ」については、ニーズとのミスマッチによる受講希望者の伸び悩み、開講講座のマンネリ化の問題に対応する必要がある。</p> <p>また、リカレント教育の推進のため、学びのきっかけとなる機会の提供が必要である。</p>	<p>「まなびとゼミ」の開講を、市民の学びのきっかけ作りやゲストティーチャーのPR、ゲストティーチャー育成の場として捉えて、制度の活性化を図る。</p> <p>講座選考において、講師経験の少ない方、人気の高かった内容の講座を優先して選考することや、ニーズの面で有望かつ派遣実績のない講座について、開講を依頼することにより、開講講座を精選し、講座活用の推進及びゲストティーチャーの育成を図る。</p> <p>また、リカレント教育の推進のため、企業ゲストティーチャー等による一般向けの講座を充実させ、新たな学びの場を提供する。</p>	B	B
			827	740	89.5%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
18	成岩公民館改築等事業	生涯学習課	B	<p>小学校区コミュニティの構築に向け、公民館に代わり、小学校敷地内に「地域交流施設(仮称)」を設置する市の方針に基づき、市民協働課と連携して実施した「なる小地区 地域の未来ミーティング」(計5回)等において、成岩4区の役員を含む成岩小学校区の住民とともに、新施設に求める機能や使い方を活発に意見交換し、地域の意識醸成を図ることができた。</p> <p>同ミーティングと並行し、成岩小学校敷地内に建設する新施設への動線について、成岩4区の役員や成岩小学校関係者、放課後児童クラブ職員とともに議論し、児童の安全面を最優先とした動線を設定することができた。</p>	<p>◆地域における意識の醸成 ・市民協働課との連携による「なる小地区 地域の未来ミーティング」の開催</p> <p>◆新施設への動線の確定 ・関係者との協議による地域交流施設(仮称)への動線の確定</p>	<p>公民館で活動している社会教育団体が、地域交流施設において活動する際の支援内容の検討。地域住民との協議による新施設の機能や使い方、管理運営方法の検討。</p>	<p>社会教育団体の支援のあり方については、半田市社会教育審議会に諮り、生涯学習の推進が図られるように整理する。</p> <p>また、「なる小地区 地域の未来ミーティング」を軸に、地域住民の思いが反映された新施設のレイアウト等をもとに、新施設の機能や使い方、管理運営方法について意見交換を進める。</p>	A	B
				11,261	11,008	97.8%			
19	大学地域連携スポーツ推進事業	スポーツ課	C	<p>全ての総合型地域スポーツクラブを対象に「部活動改革に係る”スポーツ安全保険”の活用」に関する説明を実施し、令和6年度の改革を見据えた勉強会を開催し、受入体制の安定化を図ることができた。また、各スポーツクラブが抱える課題についても、個別に勉強会を開催し、団体の基盤強化に貢献することができた。</p>	<p>スポーツ課が各スポーツクラブに調査等を実施し、全てのスポーツクラブが抱える問題や個別の課題について、愛知県スポーツ協会から講師などを招き勉強会を開催することで課題解決を図った。</p>	<p>大学及び総合型地域スポーツクラブとの連携・調整を綿密に実施し、意思統一を図る必要がある。</p>	<p>運営基盤の強化のため、会費の値上げや施設利用料の導入、会員増加や施設の効率的利用などの課題について、引き続き取り組んでいく必要がある。</p>	B	B
				1,352	1,352	100.0%			
20	半田福祉ふれあいプール管理運営事業	スポーツ課	C	<p>利用者の声を反映したイベント開催や利用環境の提供に取り組むとともに、照明設備のLED化をはじめ、より安心安全に施設を利用できる施設環境を整備することで、利用者の満足度向上に繋げることができた。</p>	<p>施設利用者数の目標値を達成はできなかったが、利用者の声から、安全性を確保したうえでスマートウォッチのプール内への持ち込みの許可や水着脱水機の設置などを行い、利便性を高めて新たな顧客の開拓を行うとともに、照明設備のLED化による施設の長寿命化を図り、より安心安全に施設を利用することができる環境を整備することができた。</p>	<p>今後、安定した利用者の確保を行うためにも、これまでの水泳教室、アクアビクス、リラックスヨガ等の自主事業も積極的に開催できるよう、指定管理者との調整を進めていく。</p> <p>また、利用者が施設を安心安全に利用できるよう、必要な修繕や設備等の整備を行っていく。</p>	<p>施設の老朽化による修繕を計画的に行い、繁忙期を避けた工事期間の調整や利用者に対する休館情報の周知を的確に行うことで、利用率に影響が少ない効率的な運営に努めていく。</p> <p>また、新規や固定の利用者を増やすために、指定管理事業者と定期的に打合せを行い、各種教室、クリスマス企画、幼児プール体験等のイベントを充実させ、利用者の満足度向上に努める。</p> <p>eスポーツ体験などプール以外の利用者の拡大も図る。</p>	B	B
				168,419	141,547	84.0%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
21	図書館一般事務	図書館	C	乳幼児から高齢者まで、また外国籍や障がいをお持ちの方に対して様々なサービスを提供することができた。 WEBからの在架予約の開始やWEB予約のパスワードをWEB上から発行できるようにしたことで、市民の利便性向上を図った。	あかちゃんとしょかんを始めとした乳幼児期からの読書支援、学校支援事業(ブックトーク、調べ学習お届け便など)、高齢者及び障がい者への読書支援、各種講座・イベントの開催。	生活環境の変化などにより活字離れが進んでおり、乳幼児期からの継続的な読書支援が必要である。また、利用者のニーズにあったサービス提供が必要である。	来館者へのサービスだけではなく、保健センターや学校、介護保健施設など図書館外に出かけて行うサービスや事業を今後も継続して行っていきたい。	B	B
				8,858	8,423	95.1%			
22	図書館資料整備事業	図書館	C	市民からのリクエストに応じた資料を整備するほか、社会情勢を考慮した選書を行うことで、市民の学びに寄与することができた。また、市内小中学校の児童生徒へ電子書籍の利用を促すことにより電子図書館の利用が大幅に増えた。	新刊購入のほか、古くなった良書の買い替えや、児童生徒向けの多言語資料、高齢者向け紙芝居の購入を積極的に行う等、全世代に向けた資料の充実を心掛け、提供に努めることができた。 学校タブレットを利用した電子書籍の貸出サービスにより、読書離れの傾向にある小中学生に対して多くの読書の機会を提供できた。	図書館界では全国的に貸出冊数の減少が問題となっているが、当館でも例外ではない。特に利用の少ない高校生から働く世代、また外国にルーツのある人たちに知識・情報提供ができるよう、より興味を持たれる選書の実施・サービス提供の方法の見直しを行う必要がある。	紙資料の充実を図ることはもちろんであるが、利用登録のオンライン化の模索・電子図書館の充実など、非来館型サービスの提供を拡充することで、新しい利用者を開拓し、学びの提供を行えるよう努める。 子ども読書活動推進計画に従い、乳幼児から中学生までを対象とした年齢に応じた資料の充実のほか、国籍や障がいに影響されない学びを得られるよう、資料の提供や読書環境の整備を行っていく。	B	B
				33,291	32,273	96.9%			
23	文化財等公開活用事業	博物館	C	阿久比の大山車と調整し、「第9回はんだ山車まつり」開催期間中も博物館に半田の山車と同じ知多型の山車を展示することができた。また、データ化した古文書などの未公開資料も映像機器を使用して公開することができた。	企画展や館藏品展などで郷土の自然や歴史、文化を伝える展示を実施したほか、博物館に展示している山車でお囃子やからくり人形を上演し、山車文化に触れる機会を提供することができた。また、「化石を発掘しよう」などの体験講座や比較的簡単な古文書を読み解く初心者向けの「やさしい古文書講座」などを実施し、年間来館者数も、コロナ禍前の平成30年度(95,961人)の93%まで回復することができた。	多くの市民に、歴史や文化に関心を持ってもらえるような情報発信を行っていく必要がある。	今後も、データ化した収蔵資料を活用するとともに、魅力的な企画展や講座などを実施し、半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合や来館者の増加を図る。	B	B
				3,697	3,428	92.7%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
24	旧中埜家住宅整備事業	博物館	A	重要文化財の附指定となっている棟札及び設計図の画像データ化、棟札の複製制作を行ったことで、貴重な原資料をできる限り良い状態で後世へ継承することができるようになった。また、ふるさと納税を活用し、客室に洋風家具を整備したことで、当住宅の魅力向上が図られたとともに、来場者等の当住宅に対する理解と愛着が深まった。	令和5年度は、重文附指定となっている棟札及び設計図の画像データ化、棟札の複製資料制作を行った。これにより、貴重な原資料の現状や記された情報を画像データとして後世へ残すとともに、原資料をできる限り良い状態で次の世代へ継承することができるようになった。さらに、複製資料による公開展示も可能となった。また、ふるさと納税による寄付金を活用し、客室に別荘当時を思わせる洋風家具の整備も行った。来場者の想像を助ける展示となることはもとより、フォトスポット・体感展示エリアとして多くの来場者から喜ばれている。	今後は、建物の魅力や価値を様々な場所で、わかりやすく発信する必要がある。	重要文化財旧中埜家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針(令和2年3月策定)」をもとに、建物の保存に必要な修理と整備、さらなる活用のために必要な整備を行っていく。令和6年度は、学習映像資料の制作と屋外炎感知器の設置を進めていく予定である。	A	A
				1,522	1,517	99.7%			
25	企画展開催事業	博物館	B	「第38回知多工芸展」、企画展「童話に見る昔の道具」、企画展「歴史と伝統 半田の山車祭り」、「第38回友の会合同展」、館蔵品展「全国津々浦々!絵葉書展」の、年間5本の企画展・館蔵品展等を開催した。	「第9回はんだ山車まつり」にあわせて開催した企画展「歴史と伝統 半田の山車祭り」では、市指定文化財等の貴重な資料を借用して半田の山車文化を紹介したほか、収蔵庫に保管されていた由緒不明の山車関係資料について、詳細を明らかにすることができた。また、館蔵品展「全国津々浦々!絵葉書展」では、展示にあわせて約5,000枚の絵葉書を整理し、デジタルデータ化することができた。	企画展「童話に見る昔の道具」では、昔の道具を使った体験イベント等を行ったものの、事前の調整不足により新美南吉記念館や図書館とコラボイベントの実施には至らなかった。	引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館蔵品展や常設展示に反映させていく。	B	B
				1,991	1,983	99.6%			
26	企画展開催事業	新美南吉記念館	C	特別展については、南吉生誕110年記念の新作絵本が発刊された2か月後に原画展を開催することで、より話題性のある特別展となった。関連行事として、絵本作家とその娘による親子対談講演会も開催し、特別展の相乗効果をあげた。特別展1日あたりの観覧者数250人は、目標値の300人には届かなかったものの、昨年より33人増となっている。	メインの特別展(7月~10月)として、人気絵本作家長野ヒデ子氏による絵本原画などを通して、南吉文学と母について紹介する「南吉と長野ヒデ子の母の世界展」を開催。また、童話「牛をつないだ椿の木」にフォーカスした企画展(4月~6月)、写真と詩で南吉が愛した知多半島の自然に触れてもらう企画展(11月~12月)、榊原澄香氏による南吉童話のペーパー展(1月~3月)を開催。	観覧者数の目標値は高めに設定している。コロナ禍で減ったものが順調に戻りつつあるが、まだ目標値には届いていない。観覧者の増減については、展示内容以外の外部要因として、秋の彼岸花の開花状況が影響していると思われ、観光のついでではなく目的となるような展示作成が求められる。	生誕110年で南吉に注目した人々の関心を維持し、さらに新しい層を開拓できるような企画を立てる必要がある。そのために、今後も絵本原画展や異分野とのコラボレーションなど、多彩な切り口で企画を立案する。	B	B
				3,071	2,980	97.0%			

	主要事業名	担当課	令和5年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	浅田	鈴木
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
27	新美南吉童話賞事業	新美南吉記念館	C	応募総数は1,569編で、昨年度の1,841編より減少したものの、県内7名(うち半田市3名)が入賞し、中日新聞県内版や知多版でも関連記事が掲載され、当童話賞の知名度向上と南吉顕彰につなげることができた。また審査員からも応募作のレベルが高くなっていると高評価を得ている。	郷土の作家新美南吉の名を冠した創作童話コンクールとして、小学生から大人までのアマチュアを対象に、全国に向けて創作童話を募集する。募集、応募作の整理、審査、表彰、入選作品集の発行を行う。	令和4年度より応募資格を商業出版未経験者に限ったことの影響が、自由創作部門一般の部とオマージュ部門の応募数が減少傾向にある。しかしこれについては、賞金目的ではなく、新美南吉の名を冠する賞に価値を見出す人から応募を頂いていると捉えている。市民からの応募数が伸びていないため、持続的に応募数を増やすことが課題である。	令和6年度(第36回)より、郵送・持参に限っていた作品の応募方法にロゴフォームを加える。パソコンで原稿を書く応募者が大半であるため応募しやすくなり、応募数の増加が期待される。今後も当賞の特色である新美南吉オマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰につなげる。	B	B
				3,198	3,170	99.1%			
28	新美南吉生誕110年記念行事事業	新美南吉記念館	B	誕生日当日にアイプラザ半田で行った記念行事はチケットを完売し、来賓関係者含め509人が観覧した。その他のイベント動員人数やアンケート結果からも、幅広い世代にあらためて新美南吉とその作品に対し、新たな価値や魅力に気づいてもらえたといえる。関心の高まりは、入館者数にも現れ、前年度比120%の53,343人が来館した。	南吉の詩の一節「さあ、この泉を汲んでくれ」をキャッチコピーに、講演会、朗読会、生誕祭式典など多彩な事業を実施した。当館主催事業の他にも、庁内他課が実施したもの、民間団体と共催したもの、市民事業募集に応募されたものなど多岐にわたった。PR面でもPRサポーターの募集、名鉄電車吊広告など民間事業者とタイアップして積極的に展開した。	記念事業により高まった南吉への関心を一過性のものにせず、持続させるのが課題。	生誕110年事業は終了したが、記念館内ビデオシアターでは、令和5年7月の生誕祭で上演した市内小学生による「ごんぎつね」朗読リレーを聴くことができる。これからも幅広い世代に南吉顕彰事業への参加を促し、市民の南吉に対する誇りと愛着を醸成する。	A	A
				3,805	3,133	82.3%			